



▲ホームページ



【左】1月26日にクラウドファンディングで呼び掛けていたテラス作りを実施すると、多くの人が応援に駆け付けてくれました。



【右】テラス作りの際に昼食作りを頑張る子どもたちの様子。

information

南さつま市加世田出身。結婚後、花農家として農業に携わる傍ら3人の娘の子育てに奮闘中。県職員時代、研修で参加したNPO霧島食育研究会との出会いが、農家とファミリーホームの二刀流を目指す契機になったと語る。地域交流の拠点づくりを模索中。

今後は、「里親という生き方」に共感し、養育にチャレンジしたいという方の相談に乗れるような体制づくりもしていきたいです。

「里親」という生き方に共感し、養育にチャレンジしたいという方の相談に乗れるような体制づくりもしていきたいです。

時代になりました。退庁した時、私なりに福祉の道には区切りを付けた。と自粛自戒しましたが、コロナ禍を契機にファミリーホーム立ち上げを決意。鹿屋商工会議所主催の起業塾の受講からスタートし、今年1月15日輝北町にファミリーホーム「米重さん家」を開設しました。また、ファミリーホームを知ってもらいたい、未来を託す子どもたちを応援してほしいとの思いからクラウドファンディングを実施。目標金額を大きく上回り、123名の方から支援していただきました。クラウドファンディングで呼び掛けたテラス作りには、40人以上が駆け付けてくださったことに本当に感謝しています。同時に皆さんに応援していただいていることを再認識し、事業を軌道に乗せる努力を惜しまないと固く決意しました。

※ファミリーホーム（小規模住居型児童養育事業）とは、親がいない、親と暮らすことができないといった理由で児童相談所が「社会的養護が必要である」と判断した子どもを養育者の自宅で養育する「里親」の拡大版。



よ ね し げ は な こ
米 重 花 子 さん

福祉の道を志したのは、実は自分の意志ではありません。私が中学2年生の時に母が病氣から常時介護が必要な障がい者となりました。私は、今という「ヤングケアラー」でした。高校卒業時に介護福祉士を取得し、大学では嗜癖行動を学び、社会福祉士と精神保健福祉士も取得。卒業後、一年間限定で貧困街に住み込みで社会改良運動を行うセツルメント活動をしたこともありました。帰郷後、介護老人保健施設の支援相談員を経て、鹿児島県庁に入庁します。初

任地は霧島市の児童自立支援施設「若駒学園」で寮母さんでした。複雑な家庭環境等で育った子が多かったです。次の鹿児島中央児童相談所での勤務では、親権停止裁判や特別養子縁組など児童相談所でないといけない業務を経験。鹿屋に來たのは転勤で大隅地域振興局で生活保護のケースワーカーでした。結婚を機に退庁するまで様々な福祉の現場を経験しました。

※ファミリーホームの存在は、平成20年に国で制度化される以前から知っており、セツルメント活動